

地域の労働者と青年の結集をめざす

横三労連新聞

第32号

2009年5月15日発行

http://www.yokosan.info/index.htm e-mail:yv2t-tnk@asahi-net.or.jp docomo

au/ソフトバンク

〒238-0006 横須賀市日の出町2-9 046-823-0210 (内線433)



メーデーに250名!

市長選挙、始動!

第80回横須賀地区メーデーは、爽やかな青空のもと、12団体250名が参加して大成功しました。舞台上から数えた感じでは、昨年より少ない感じでしたが、デモ行進の先頭から見ると、昨年よりはるかに長い隊列に驚かされました。呉東正彦弁護士・市長予定候補の来賓挨拶を受け、各団体の決意表明も熱を帯び、うわまち病院労組の代表からは、市民病院の指定管理者制度導入についての問題提起もあり、また自交総連から久々の決意表明もありました。

原子力空母配備と、それに続く原子炉メンテナンス疑惑のもと、ゲート前での議長によるシュプレヒコールも決まりました。

夜には、三浦地区メーデーも2年ぶりに開催され、ダイヤモンド富士を楽しんだあと9団体50人が集まりました。各団体からの熱い決意表明のあと、市役所まで商店街をデモ行進しました。

4/27、「市民の力で、変わる横須賀」集会が開かれ、会場満杯の200名以上の熱気に包まれました。元国立市長の上原公子さんは、ご自身の経験を披露しつつ、基地を抱える横須賀の難しさと重要性を強調し、呉東弁護士を励ました。呉東弁護士は、第一次マニフェストを発表し、「朝宣伝は辛いけど、ミニ集会は楽しい。立候補表明してよかった」と語りました。

CIFをめぐる 二転三転!

米軍司令官の議会証言で、原子力推進プラントに関連した装置や部品の修理施設(CIF)が横須賀に存在するとされた件で、民主団体は外務省や横須賀市に、一斉に申し入れを行いました。

最初に、4/20に「成功させる会」が市役所を訪れると、基地対策課長が外務省に照会した結果として、「キーティング司令官の証言は、間違い。」と言いました。21日、参議院議員の井上哲士氏の質問趣意書に対し、麻生総理の回答があり、「その詳細を承知していない」となっていました。

そんな中、GW号は5月6日に出港しました(15日帰港)。

一方、5月8日付東京新聞は、米海軍の担当部署に問い合わせた結果として、「CIFは日本にはない。」「司令官の証言は間違い」と報じました。

阻止連の決起集会を、 加藤泉氏が激励!

5/2にヴェルクよこすかで開催された、「市長選挙勝利をめざす県闘争本部」と「阻止連」の共催による「横須賀市長選挙勝利のつどい」では、なんと平和運動センターの加藤泉氏からの激励を受けました。加藤氏は、「市民みんなの力で市政をつくる会」を代表しての挨拶でしたが、「こういうところで挨拶をするのは、数十年ぶりです。」と語って、会場の雰囲気をもたせました。

